

T690

Oct. 19th
1944



海軍部
第三十八號海防艦隊
三十八號海防艦隊第三號

DE38
KAIBOKAN 38-go
Combat
Action
Report
(No. 1)

第三十八號海防艦隊戰鬥詳報(第一號)

昭和十九年十月十九日

一月二十日

Jan. 20th
, 1945 presented

16:30

15:20

Oct. 19, 1944

經過

天候 晴 視界 一五浬 海上波アリ

自隊(艦)及友軍の戦闘經過

月 日
天 候
時 刻

戰 闘 經 過

友軍戦闘經過、概要

十月十九日 東經一三八度四三分北緯三三度三二
海上波アリ 介ノ地矣。於テノ度方向三二ノ米ニ敵
一五二〇 潜水艦ヲ探知ス

E128° 43'
N33° 32'

一五二五 配置ニ就リ

一五二六 戦闘爆雷戦

detected
enemy
submarine

一六三〇 第一投射法(深度六〇九〇二)

投射始メ

started
depth
charging

可成艇敵潜水探知地点到達ス

17:50

17:25

一六三五 用意 射テ (三〇個) 連続 投射ス

一六四〇 投射地点ニ多量ノ重油湧出ヲ確認ス

一六四二 投射待テ

一七一五 投射初メ (深度一二〇)

一七一七 用意 射テ (三個)

一七一九 投射待テ

一七二五 投射地点ニ多量ノ気泡ト一哩半ニ亘リ

浮油ヲ確ム

一七三〇 気泡湧出地点ニ達ス

一七三〇 投射初メ (深度一二〇)

一七三一 用意 射テ (四個)

一七四〇 投射待テ

一七五〇

気泡油湧出地点ニ不動ニシテ敵潜水艇ヲ沈

confirmed
much bubbles
and oil slick of
1.5 nmiles wide

二三時或艇爆雷攻撃

二三時或艇第二回爆雷攻撃ス

二三時或艇爆雷攻撃、終ニ船底ヲ追尾ス

bubbling
point
didn't move
therefore
wthe enemy
sub must be
sunk浮油気泡湧出地点ニ四個
左空木偵大型直衝機一機

17:50 (cont.)
[sub sank]
Roughly
Certain.
Stopped
dropping

18:10

一八一〇 概不確實 投射止メ
攻撃終リ 船回リ 追尾ス

爆雷投下ス

ended attack
and followed
to the convoy
(MI-23)

四 戦果及被害

戦果、敵潜一隻撃沈概不確實
被害 ナシ

五 功績

本艦出撃當初四番艦トシテ右舷後方護衛中探信儀長上曹
花岡良一及聽音機長上曹吉田輝夫相協力シ敵潜ヲ克ク遠巨
離ニ(三三〇米)ニ探知捕捉ヒテ其功績顯著ナリト認ム

六 戦訓

ナシ

(終)

End